



古代インドの音を吸収しなさい ガウリー・マウラー

「*テンプルの中にいなさい*」のサツツァング

シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールでのライブ動画配信

2020年4月28日 火曜日

ナマステー。ビエンベニードス。ビヤンブニュ。

このサツツァング——「*テンプルの中にいなさい*」のサツツァング——にようこそ。私たちは、バガヴァーン・ニッテャーナダの輝かしい存在の面前にいます。私たちはライブ動画配信を通して、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールで、このサツツァングに参加しています。

ライブ動画配信が始まると、私たちが最初に目にする映像の一つは2020年のグルマーイの美しいメッセージ・アートワークです。私が覚えているすべての年の中で、今年はこれまで以上に、メッセージ・アートワークは人々の意識の中に存在しています。それはなぜなら、毎回シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールでの「*テンプルの中にいなさい*」のサツツァングの始まる前に、誰もがアートワークのダルシヤンを持つことができ、そしてそれを学ぶ機会を持つことができるからです。これは素晴らしいことではありませんか？ ゆったりとできる学習です。

今日のサツツァングの2番目の要素は、自然を垣間見る動画でした。この動画の中の写真は、あなたのようなグローバル・シッダ・ヨーガ・サンガムの何百もの良き人々から寄稿されたものです。先週の土曜日の夜、アクシヤヤ・トゥリティヤを祝うシッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールでのナーマサンキールタナの司会を務めたイーシャ・サーデサイは、グルマーイに代わって皆さ

んに感謝をしました。改めて今日も、見事な写真を分かち合ってくださいましたことに心から感謝します。

今日の「 templeの中にいなさい」のサツァングでは、古代インドの音を聴いて、吸収することに専念します。これから私たちは、シッダ・ヨーガの道に不可欠な教えを伝える賛歌を聴き、そして原初の音を呼び起こすタブラーの鼓動を聴き、感じ取ります。

昨日は、シャンカラーチャーリヤ・ジャヤンティ——8世紀から9世紀にかけて生きた偉大なシッダ、アーディ・シャンカラーチャーリヤの誕生日——でした。アーディ・シャンカラーチャーリヤは、この宇宙にあるすべてのものはブラフマン——神——であると断言する哲学、アドゥヴァイタ・ヴェーダーンタの教えを明らかにし、数々の解説を書きました。アドゥヴァイタ・ヴェーダーンタの哲学はシッダ・ヨーガの道の基盤であり、グルマーイとバーバは、しばしばアーディ・シャンカラーチャーリヤの著作から、彼の教えについて話し、詩節や賛歌を歌いました。

アーディ・シャンカラーチャーリヤは、インドの四つの基本方位に四つの僧院を設立しました。アーディ・シャンカラーチャーリヤはサンニャーシンであり、スワームであり、また、10の異なるサンニャーサの教団、つまり僧団を確立しました。バーバ・ムクターナンダは、シッダールダ・スワームによりサラスワティー僧団に入りました。グルマーイがバーバからサンニャーサの誓いを立てた時、彼女もまたサラスワティー僧団の僧侶になりました。シッダ・ヨーガのスワームたちは皆そうです。

間もなく、私たちは、アーディ・シャンカラーチャーリヤの主となる教え、彼の教えの本質とアドゥヴァイタ・ヴェーダーンタの哲学が抽出された詩節を聴きます。この教えは、SYDA ファウンデーションのシャクティ・プンジャのアーカイブからの美しい絵画と共に、シッダ・ヨーガの道のウェブサイト現在掲載されています。その絵画はあるシッダ・ヨーギによって創作され、弟子たちと自然の中にいるアーディ・シャンカラーチャーリヤが描かれています。

アーディ・シャンカラーチャーリヤは言います。

何百万もの教典で言われていることを、節の半分で言う。

ブラフマンは真理である。

世界は非現実である。

個々の魂は真にブラフマンであり、他の何ものでもない。

これから、グルデーヴ・シッダ・ピートウのグルクラの生徒であるシッダ・ヨーガのミュージシャンたちが歌う、この深遠な英知を聞きます。

「グルクラの生徒」という言葉の意味と由来について説明しましょう。1994年、アーシュラムの神聖さとその目的を維持するために、ある指針がグルデーヴ・シッダ・ピートウで施行されました。その指針は、心からセーヴァーをささげ、シッダ・ヨーガの教えを学びたい人々を啓発し、鼓舞するためのものでした。短期あるいは長期のセーヴァーをささげるためには、また、グルデーヴ・シッダ・ピートウでのリトリートに参加するためには、申込書を提出するようにその指針は言明しています。「グルクラの生徒」という名称は、グルデーヴ・シッダ・ピートウで長期のセーヴァーをささげ、そこに住む人々のことを示すために定められました。

グルクラの生徒たちがこのアーディ・シャンカラーチャーリヤの美しい詩節を歌い、そしてガウリーが再び話しました。

このアーディ・シャンカラーチャーリヤが書いた最も重要なシュローカの一つを聞くこと——しかもインドから直接聞くことは、大変素晴らしいことです。

今日は、もう一つの重要な記念日であることをお伝えしたいと思います。これは、シッダ・ヨーガの道において歴史的な記念日です——45年前のこの日、1975年4月28日に、バーバ・ムクターナンダがオークランドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムを初めて訪問しました。オークランドの皆さん、こんにちは！

グルマーイは、オークランドのコミュニティーがどれほど強いのか、幾度となく話してきました。あなたたちは45年間もの間、アーシュラムを大事にしてきました——愛を込めて、忠実に、勤勉さと献身と、そして素晴らしい忠誠心を持って。本当にありがとうございます。

間もなく、グルデーヴ・シッダ・ピートウのグルクラの生徒たちが、優美な賛歌の形を取ったアーディ・シャンカラチャーリヤのもう一つの教えを歌います。この賛歌は、「バジャ・ゴーヴィンダム」と呼ばれています。

この賛歌を聞くことになった背景についてお話ししましょう。4月1日の水曜日、特別にインドに向けてライブ配信されたグルマーイとの「テンプルの中になさい」のサツァングで、グルマーイは「バジャ・ゴーヴィンダム」について話しました。その日、グルマーイは、サツァングに来る前に、その日が4月1日、つまりエープリルフールの日であることに気づいたと言いました。グルマーイは、インドの人々がサツァングをエープリルフールのからかいだと——だからサツァングはないなどとは思わないように願いました。

グルマーイは「fool(フール:愚か者)」に当たるヒンディー語を考えながら、同時にサンスクリット語の fool に当たる言葉、ムーダを思いました。ムーダという言葉が浮かんで来るや否や、グルマーイはアーディ・シャンカラチャーリヤの賛歌をハミングし始めました。「バジャ ゴーヴィンダム バジャ ゴーヴィンダム、バジャ ゴーヴィンダム ムーダ マテー」。

英語、ヒンディー語、そしてサンスクリット語との間での、この言葉遊びについて聞くのは楽しいものでした。グルマーイはさらに言いました。「ですからあなたたちは、シッダ・ヨーガの道では4月1日が吉兆な祝祭日になり得ることが分かるでしょう——なぜなら、『バジャ・ゴーヴィンダム』を歌うことができるからです」

「バジャ・ゴーヴィンダム」の繰り返し部分では言っています。

おお、幻想にとらわれた愚か者よ、ゴーヴィンダの名前を歌いなさい。

ゴーヴィンダの名前を繰り返しなさい。ゴーヴィンダに仕えなさい。

死の時に、書物から丸暗記して復唱する知識で

おまえが守られることはない。

それでは、グルデーヴ・シッダ・ピートウのミュージシャンたちが歌います。



シャーンバヴィー・クリスチャンが、1980年代後半から1990年代初めにかけて、グルデーヴ・シッダ・ピートウでは毎日正午に、バガヴァーン・ニッテャーナダ・テンプルでグルマーイと賛歌を歌っていたと、私に話してくれました。これらの賛歌には「バジャ・ゴーヴィンダム」も含まれており、やがてテンプルでのチャンティング、テンプルでの賛歌として知られるようになりました。

どうやら私たちは今、ぐるっと1周してきたようです——シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールで、皆と一緒に…テンプルで賛歌を歌うことで！

私が「テンプルの中にいなさい」のサツァングでセーヴァーをささげ、参加した後で気づいたことの一つは、歌い続けたいということです。私はチャンティングを続けたいです。このエネルギー

ギーの中に居続けたいのです。皆さん全員がこの感情に共感すると確信しています。シッダ・ヨーギとして、私たちは学び、学習し、吸収し続けることを望みます。ですから、グルクラの生徒が「バジャ・ゴーヴィンダム」を歌っている録音が、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトに掲載されると知るの嬉しいことと思います。

「 templeの中にいなさい」のサツァングの一つで、グルマーイが、音についてのバーバ・ムクターナダの教えについて話したことを覚えている人もいるかもしれません。バーバは、ドラムの音はどんな薬も届かない最も奥にある心臓の分子に届くと言いました。そう、今日私たちは、唯一無二のシッダ・ヨーギ、オージャス・アディヤが演奏するタブラーの素晴らしい音を聞きます。彼のほほ笑みは、彼が演奏するドラムのすべてのタールにきらめいています。心を開き、タブラーの音をあなたの体のすべての細胞に浸透させてください。

オージャスは妻のナヤーブとムンバイに住んでいます。オージャスが2歳の時、シッダ・ヨーガ瞑想センターに行くたびに彼がタブラーを演奏することに引き込まれていることに気づいたのは、彼の父親でした。その瞬間、父親はオージャスの将来を知りました。オージャスの父親は、オージャスが現在のドラム奏者になることを可能にしました。オージャスの母親と弟のマナスもシッダ・ヨーガの道に従っています。

グルマーイはこの家族が大好きです。



オージャスの素晴らしいタブラーの演奏に続いて、ガウリーが彼にお礼を言い、サツァングを締めくくります。

オージャス、あなたがタブラーを演奏しているのを目の当たりにしました。あなたは 10 本の指だけで、世界レベルのバレエダンサーのすべての動きをします。

Plier —— あなたは指を曲げます。

Étendre —— 指を伸ばします。

Relever —— 指を優雅に上げます。

Glisser —— 指をタブラーの皮の上で滑らせます。

Sauter —— あなたの指は情熱で跳びはねます。

Élancer —— 指はタブラーの上で目まぐるしく動きます。

Tourner —— 手は回転し、すべての聴衆にタブラーの音の魔法を届けます。

オージャス、本当に、本当にありがとうございます。シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールは、あなたのほほ笑みの輝きと、タブラーの響きで満たされているのを感じます。私たちの心は舞い上がっています。

私たちは、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールで、バガヴァーン・ニッテャーナダの面前で、「テンプルの中にいなさい」のサツァングに参加しました。このすべてはグルマーイの恩恵で可能になったのです。

シッダ・ヨーガのサツァングの力は比類ないものです。私たちが体験することは、単なるシャクティの1滴ではありません。私たちはシャクティの大海を体験します。シッダ・ヨーガのサツァングに参加するたびに、私たちは真理のネクターを飲んでいきます。シッダ・ヨーガの教え、シッ

ダ・ヨーガの修行、シッダ・ヨーガの学びは、私たちを一つの素晴らしい場所へ導きます ——
それは内側です。大いなる自己へ。大いなる心へ。一体性へ。。

互いにつながり続けてください。

幸せでいてください。

幸せを広げてください。

幸せを育ててください。

強い幸せ。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。